

鹿児島県阿久根市（国内 45 例目）の高病原性鳥インフルエンザ発生農場に係る
疫学調査チームの現地調査概要

令和 4 年 12 月 22 日に実施した現地調査により、以下のことを確認した。

1 農場の周辺環境・農場概況

- ① 当該農場は平野部にあり、周辺は藪に囲まれていた。農場周辺にはみかん農家や採卵鶏農場があり、農場から約 500m 離れた地点にはため池が位置している。
- ② 調査時には、農場から 5 km 離れた農地にて、ツル類 3 羽を確認したほか、農場付近においてはスズメ等の小型の鳥類が観察された。
- ③ 当該農場は開放鶏舎を改造した平飼いのセミウインドウレス鶏舎 6 棟を有し、発生時は全棟で肉用鶏を飼養していた。
- ④ 当該農場は国内 27 例目及び国内 41 例目発生農場を中心とした半径 3 km 以内の移動制限区域内に位置している。

2 通報までの経緯

- ① 国内 27 例目の発生に伴い 12 月 7 日に実施した周辺農場検査に置いて陰性が確認されていた。
- ② 飼養管理者によると、鶏舎当たりの 1 日の死亡鶏は 0 羽から 4 羽程度が分散して認められる程度であったとのこと。
- ③ 12 月 20 日午前 8 時に農場を見回った際、発生鶏舎（通報時 28 日齢）の奥から 6 m ほどの位置で、死亡鶏 2 羽と、その周囲に衰弱した鶏を 7 羽確認し、死亡鶏のみ回収して経過観察とした。その後、同日午前 11 時に見回った際、同場所で 7 羽の死亡鶏が確認されたことから、系列会社を通じて家畜保健衛生所に通報したとのこと。

3 管理人及び従業員

- ① 当該農場は飼養管理者 1 名と作業員 1 名の 2 名の従事者がおり、作業内容及び鶏舎ごとの担当は設けていなかったとのこと。
- ② 従事者 2 名は他の家きん飼養農場に立ち入ることはなかったとのこと。

4 農場の飼養衛生管理

- ① 農場入口にはロープのゲートがあり、立入禁止看板が設置されていた。
- ② 飼養管理者によると、車両が農場に入る際は、衛生管理区域入口のゲート付近に設置された動力噴霧器で車両消毒を実施していたとのこと。
- ③ 従業員は自家用車で出勤し、車両消毒を行い、事務所で衛生管理区域専用の作業着に更衣し、衛生管理区域専用の長靴に履き替え、手指消毒をしていたとのこと。鶏舎に入る際には、鶏舎出入口外で手指消毒及び踏み込み消毒槽で靴底消毒（逆性石けん、2～3 日に 1 回交換）を行い、各鶏舎専用の長靴に履き替えた後に、鶏舎に立ち入っていた。
- ④ 発生鶏舎を含む全ての鶏舎に手指消毒用のアルコール、蓋付き靴底消毒槽、各鶏舎専用の長靴が用意されていた。
- ⑤ 従業員以外の来場者については入場記録を保管しており、来場者は車両消毒を実施し、衛生管理区域専用の長靴と上衣への更衣を実施していたとのこと。飼養期間中は、飼料運搬業者を除いて、通常外部事業者が衛生管理区域に入ることはなく、鶏の出荷及び鶏糞の搬出の際に系列会社の作業員が衛生管理区域及び鶏舎に立ち入るとのこと。
- ⑥ 当該農場の鶏舎の換気は外気温及び鶏群の日齢ごとに自動で調整されており、鶏舎後面の換気扇から排気され、鶏舎入口付近の吸気口から外気を取り込んでおり、夏季は鶏舎入口付近のクーリングパッドからも吸気しているとのこと。側面のロールカーテンは常に閉め切られているとのこと。

- ⑦ 鶏舎内に目立った隙間や破損は確認されず、破損のあった部分は修繕されていた。配管や機械が鶏舎内外に出入する部分では隙間が確認された。
- ⑧ 飼料タンク上部には蓋が設置されており、鶏舎内のラインを通して自動で給餌する構造となっていた。直近の飼料搬入は12月16日とのこと。
- ⑨ 飼養鶏への給与水は井戸水を使用しており、農場入口付近のポンプで水を汲み上げ、次亜塩素酸ソーダにより水の消毒を実施していたとのこと。
- ⑩ 農場全体でオールイン・オールアウトを行っており、オールアウト後に鶏舎内の洗浄、消毒を行い、空舎期間は約21日設けていたとのこと。
- ⑪ 鶏糞は鶏群のオールアウト後に、系列会社の作業者が搬出作業を行い、系列の共同堆肥施設に運搬していた。敷料におがくずを使用していたが、発生ロット導入後の納入はなかったとのこと。
- ⑫ 飼養管理者によると、日常的に農場内に石灰散布を行っており、鶏舎の周辺及び道路脇に消石灰を帯状に敷き、従業員はその上を歩いて移動していたとのこと。また、直近1か月程度は農場周囲の藪や土手に細霧噴霧器を用いて消毒を行っていたとのこと。
- ⑬ 健康観察は各鶏舎で毎日2回以上実施しており、死亡鶏は鶏舎入口で保管し、3日に1回の頻度でその日の農場内作業が終了した後、農場から10kmほどの距離にある地域の共同保管庫に持ち込んでいたとのこと。直近は12月18日。
- ⑭ 系列会社の管理獣医師は、1日に複数農場巡回する際は更衣及びシャワーアウトを行っていたとのこと。直近では12月7日に来場していた。

5 野鳥・野生動物対策

- ① 鶏舎はセミウインドウレスの構造をしていたが、常にロールカーテンを閉めて運用していたため、野鳥が侵入できない構造となっていた。
- ② 飼養管理者によると、農場付近において、日常的にスズメやカラスを見かけるとのこと。
- ③ 飼養管理者によると、定期的にネズミが確認され、日ごろのネズミ対策として鶏舎外に殺鼠剤の散布を行っていたとのこと。調査時、鶏舎内でネズミの侵入を疑うラットサインは確認されなかった。
- ④ 飼養管理者によると、農場内でネコを頻繁に見かけることはあったが、農場に定着しないよう、飲み水となる水場を作らない等の対策をしていたとのこと。なお、調査時に農場内においてイタチ科動物のものと思われる糞を確認した。

(以上)